

□校庭舗装材比較表

舗装分類	クレイ系舗装		天然芝		ゴムチップ舗装 (現在の舗装)		人工芝		
							ロングパイル	ミドルパイル(充填材なし)	
イメージ									
仕様	緑輝岩を砕石した舗装材		天然の芝草		ゴムチップを接着剤で固めた舗装材		合成樹脂を表面材とし、すき間に珪砂やゴムチップを充填する。		
特徴	区の小・中学校の標準仕様となっている。多目的に利用が可能だが、砂埃による周辺住環境への影響等がある。		養生期間(概ね2～3か月/年間)が必要なので、芝生の養生期間を考慮し、利用頻度の高い部分を除いた一部の範囲への整備が一般的。		八幡小現在の舗装。砂埃が立たないので、周辺環境への影響が少ない。雨天時は滑りやすく、夏場は表面温度が高くなる。		天然芝と同等の競技適応性ある。砂埃が立たないので、周辺環境への影響が少ない。夏場は表面温度が高くなる。マイクロプラスチックの流出対策が必要。		
安全性	▲	・岩石を砕いて生成された材料の為、擦り傷等が生じ易い ・運動に必要な適度な弾力性を有するが乾燥すると硬くなる	◎	転倒時の衝撃は、芝・床土の弾力により緩和されケガの発生が少ない	○	・雨天時は滑り易い ・適度な弾力性がある為、足腰の負担は少ない	◎	・弾力性に優れている為、足腰に優しい ・クッション性が高く、転倒時の危険性が少ない	
機能性	▲	降雨や降雪後は、使用制限	▲	・養生期間中は、使用不可 ・降雨や降雪後は、使用制限	◎	全天候	◎	全天候	
多目的利用	◎	・多様な活動や行事に適する ・飲食可能	○	・多様な活動や行事に適する ・車両制限あり(養生が必要) ・飲食不可(スポーツドリンクも不可)	▲	・白線の可変性に難がある ・火気厳禁 ・車両制限(養生が必要) ・飲食可能(清掃が容易)	▲	・白線の可変性に難がある ・火気厳禁 ・車両制限(養生が必要) ・飲食不可(スポーツドリンクも不可)	
防塵性	▲	砂埃が立ち易い	◎	地表面を覆っているため埃は立ち難い	◎	埃は立たない	◎	埃は立たない	
透水性	▲	砂質系で透水性は良好だが、経年により透水性が悪くなる	○	床土は主に川砂を使用しているため、透水性は良い	◎	水はけが良く、水溜りは発生しにくい	◎	水はけが良く、水溜りは発生しにくい	
競技適応性	サッカー	○	可	◎	優れる	▲	転倒時の危険性あり(スパイク不可)	◎	優れる
	野球	○	可	◎	優れる	▲	転倒時の危険性あり(スパイク不可)	◎	優れる
	バスケ	○	可	▲	バウンドしにくく不規則	◎	最も優れる	▲	バウンドしにくく不規則
	テニス	○	可	×	バウンドしにくく不規則	◎	最も優れる	×	バウンドしにくく不規則
維持管理性	○	・日常管理はブラシ掛け程度 ・砂の補充 ・散水や側溝清掃など砂塵対応が必要	▲	・定期的な散水・芝刈・更新作業など計画的な管理が必要 ・年間約2～3ヶ月間は養生期間が必要	◎	・日常管理は不要だが、使用頻度により、表面のコーティングや部分的な張替が必要 ・夏場の表面温度抑制の散水が必要	◎	・日常管理は不要だが、使用頻度により、人工芝のフラッシングおよび充填材の補充が必要 ・夏場の表面温度抑制の散水が必要	

◎良い、○普通、▲劣る、×不可

### ■主要な既存樹木健全度診断結果

当該敷地内のサクラ・ユリノキを対象に、樹木の健康状態及び危険性の有無の評価、移植の可否の判定を把握するため、マニュアルに準拠して外観診断調査を実施した。

no.5, 99 サクラ  
倒木の危険があったため  
伐採済み

no.7 サクラ  
腐朽進行  
早急な安全対策が必要

no.37,40 サクラ  
移植可能  
事前に根回しをし、  
適正な養生期間を確保

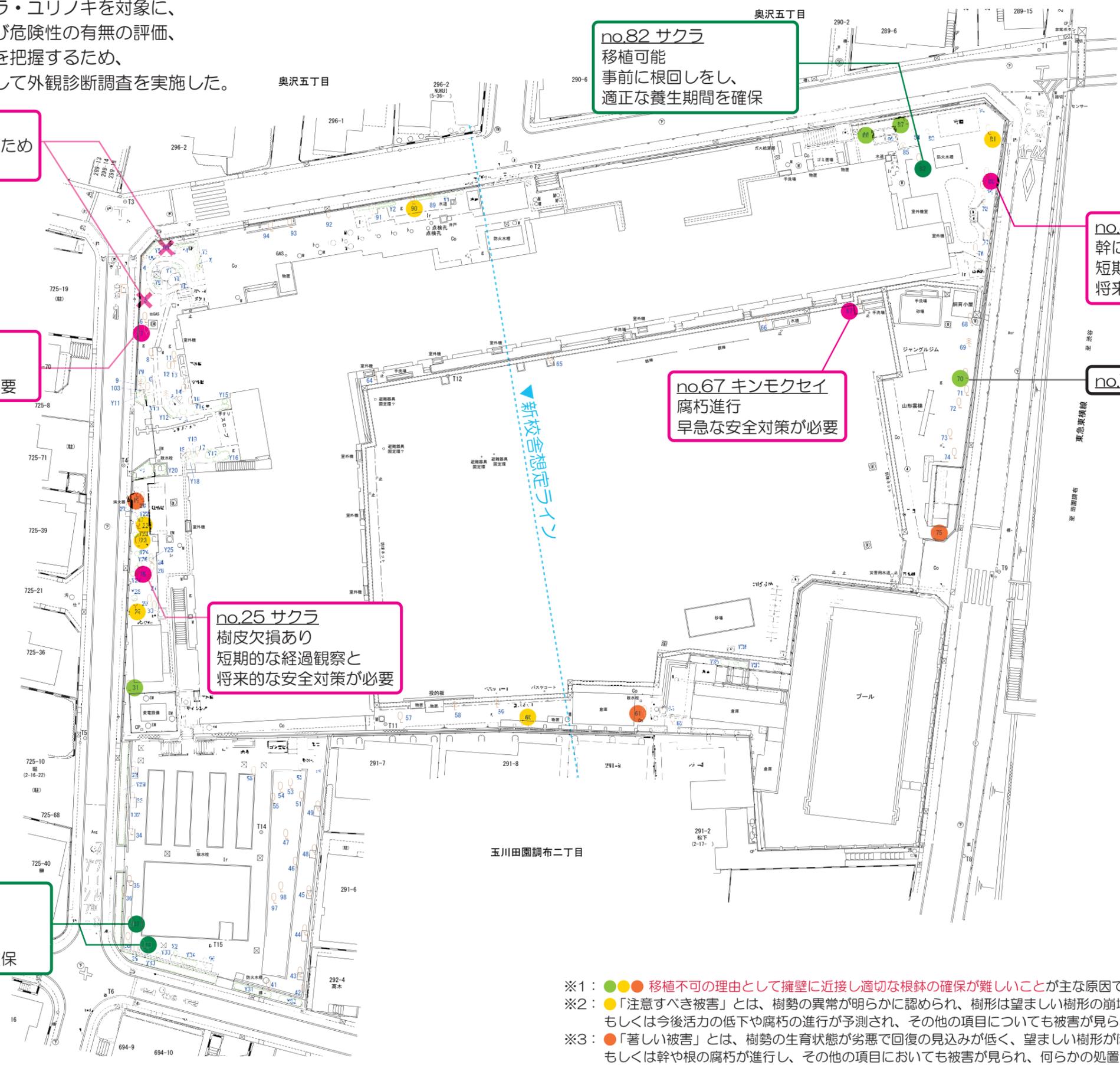
no.25 サクラ  
樹皮欠損あり  
短期的な経過観察と  
将来的な安全対策が必要

no.82 サクラ  
移植可能  
事前に根回しをし、  
適正な養生期間を確保

no.67 キンモクセイ  
腐朽進行  
早急な安全対策が必要

no.80 サクラ  
幹にキノコあり  
短期的な経過観察と  
将来的な安全対策が必要

no.70 ユリノキ



【凡例】

- : 健全、移植可能
- : 健全、移植不可
- : 注意すべき被害あり、移植不可
- : 著しい被害あり、移植不可
- : 不健全、対応必要
- ✕ : 伐採済み

※1 : ●●●● 移植不可の理由として擁壁に近接し適切な根鉢の確保が難しいことが主な原因である。  
 ※2 : ● 「注意すべき被害」とは、樹勢の異常が明らかに認められ、樹形は望ましい樹形の崩壊がかなり進んでいる状態。もしくは今後活力の低下や腐朽の進行が予測され、その他の項目についても被害が見られ、注意や簡易な処置を必要とする状態である。  
 ※3 : ● 「著しい被害」とは、樹勢の生育状態が劣悪で回復の見込みが低く、望ましい樹形がほぼ崩壊し、回復の見込みが低い状態。もしくは幹や根の腐朽が進行し、その他の項目においても被害が見られ、何らかの処置を必要とするもの



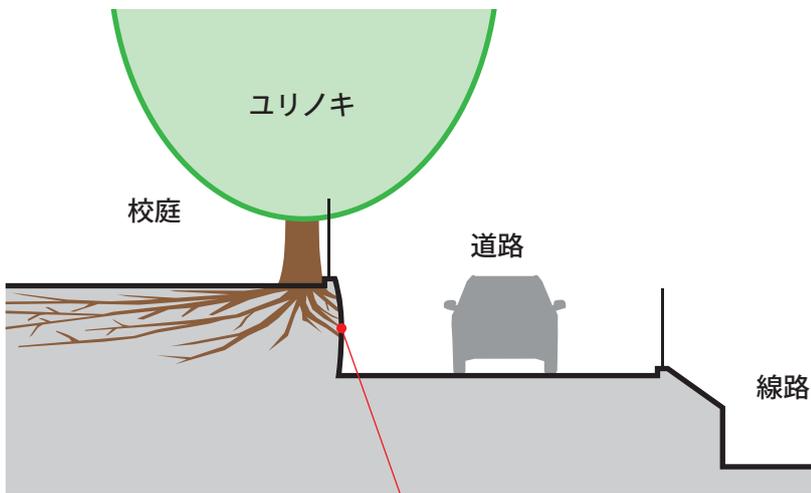
## ■ユリノキの残置と移植について（樹木医による見解）

### ①残置について

診断結果としては「健全か健全に近い」と判定している。ユリノキの幹の大きさや擁壁に接している状況から、残置するためには根の保護範囲を 20m 程度の確保するのが望ましい。また、擁壁を撤去する場合はワイヤー支柱などで樹体を支える必要がある。  
→新校舎とユリノキの離隔を 20m 確保することは配置計画上困難。

### ②移植の困難さについて

- ・老齡樹なので移植後の環境で根が活着できない可能性がある。  
(若い木の方が移植後の環境に対応しやすい)
- ・片側を擁壁に接している環境に合わせて、長年かけて根系が分布していると思われるので、移植先で樹体を支えられず、倒木する可能性がある。
- ・仮に移植工事を行うとしても、定着せず倒木する可能性がある。移植の作業では、目安として約直径 13m 程度、深さ約 3 m 程度の根鉢を掘り取る必要があり、地上部の重量も含めると大規模な工事が必要になる。



[断面イメージ]



[ユリノキの根によって膨らんだ擁壁]

### [参考] 砧小学校 取木

象徴的な松の木の DNA を継承していくため、  
取木作業を行っている。

取木…既存樹木の枝の皮を剥ぎ、  
水苔等により保湿して発根を促し、  
新たな株を得る方法



取木の様子 (右写真→)



松の木 拡大